

2011年度 事業計画

1. 基本方針

2011年度は、引き続き2009年度に定めた「大阪力・発信」「感動・癒し」「発掘・育成」「交流・平和」の4つのビジョンをもとに更なる飛躍を目指す。

2010年度は、2008年からの大阪府からの補助金廃止問題によって先行き不透明な状況が続き、大阪府との交渉に体力的にも精神的にも大変なエネルギーを必要とした。2011年度からは大阪府の補助金がゼロとなり、また公益財団法人を目指すことが決定して、今後、運営面、音楽面を計画的に進めることが可能となった。

名称も2011年4月より「日本センチュリー交響楽団」と改称し、内外に新たなスタートのアピール、演奏能力の更なるレベル・アップ、広域的な活動やスポンサーの新規開拓に努める。

しかしながら、運営面では補助金の不足分を補う基本財産を転じた運用財産には限りがあり、それをカバーする寄付や賛助会員など、スポンサーの更なる確保に力を注ぐことが急務となる。

また、主な収入源である依頼公演は、近年の経済不況やホールの指定管理者制度の影響によって公演数が減少しており、他のオーケストラとの演奏レベル出演料などの比較によって主催者が依頼先をより厳しく選定する傾向にある。

そのため、小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者によるトレーニング、音楽的向上を行うとともに、計画的に現在の編成を他のオーケストラ並みの人数に増員して、より多くの公演確保を行うことが必要となる。

社会貢献事業は、収益性は全くないもののオーケストラとしての義務、アピールとして引き続き継続するが、同時に経費を補うために各種助成団体の理解を得て支援を得られるように努める。

当団が認可を受けている「特定公益増進法人」と同様の税制上の優遇措置資格を有する「公益財団法人」への移行をはかる。これまで以上の財務の透明性、厳格化や法令順守、情報公開を求められるため、事務局のより一層の強化に努める。

2. 事業計画

(1) 世界に冠たるオーケストラを目指して

小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者を中心に、日本国内にとどまらず世界で高い評価を受けるオーケストラを目指す。そのために演奏能力の充実、優秀なメンバーの確保、また聴衆の拡大を図るために以下の施策を行う。

① 指揮者陣による更なる演奏の充実

2010年度で契約満了となる小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者との契約を3年間延長して、定期演奏会を中心に「レパートリーの拡大」「演奏能力の充実」「より豊かな響きの構築」など一貫した方向性をさらに推し進める。

また、定期演奏会ゲスト指揮者は、世界各国のベテラン、中堅、若手を起用して、彼らの得意とする母国の作品を中心に演奏能力のレベル・アップとレパートリーの拡大を図る。また、海外マネジメントとの連携強化を進めて、海外公演の確保、次世代指揮者の発掘のために様々な国籍の指揮者を起用していく。

② 名曲コンサートの開催

定期演奏会では芸術文化団体としての「芸術性の高みを目指す」面があり、また音楽界、助成団体からの評価を考慮すると聴衆のなじみのある名曲ばかりを取り上げにくい状態にある。そのため、平成23年度から、初心者、小中学生、名曲志向の聴衆のための「センチュリー四季コンサート2011」を年4回開催する。

会場は交通アクセスの良いNHK大阪ホール、日時は日曜日午後、リーズナブルな料金、と高齢者やファミリーでも気軽に来場できるように設定した。

また、オーケストラにとっても依頼公演で多く要望のある名曲を小泉和裕音楽監督による練習、公演を行うことによって、質の高い演奏を提供できると確信する。これは、今後主催者から高い評価を得る意味でも有意義である。

③ 大阪府以外での共催公演

2004年度からの「京都特別演奏会」、2010年度から開始した「びわ湖定期公演」に加えて、ホールとの共催によって「三重特別演奏

会」、「福井特別演奏会」、「神戸特別演奏会」を新たに開催する。

これらの公演によって、広域での当団の認知や聴衆拡大を図るとともに新たな地域でのスポンサー獲得に努める。

広報宣伝、チケット販売にはホールの協力が不可欠であり、また経費削減としてホール借用料減免のためにホールとの共催事業とした。

④ 社会貢献活動の充実

以前より行っている音楽体験事業「タッチ・ジ・オーケストラ」、障害者のための「特別支援学校コンサート」、入院患者や来院者のための「府立病院コンサート」、野外音楽堂での無料コンサート「星空ファミリーコンサート」の内容をさらに充実させて積極的に社会に貢献する。

⑤ さらなる依頼公演の確保

経済の衰退とホールの指定管理者制度の影響で、冠公演、協賛公演やホール主催公演が大幅に減少する中、演奏能力の高さに対しての主催者の高評価、信頼を得て、さらにホールや音楽団体への積極的なアプローチを行ってより質の高い依頼公演のさらなる確保をめざす。また、事前の実演ワークショップ、レクチャーや室内楽公演などで他のオーケストラとの差別化を図り、聴衆獲得の協力も行う。

⑥ 優秀な楽団員の確保

他のオーケストラとの依頼公演確保競争に打ち勝つため、また指揮者陣の望む演奏能力レベル・アップや多様なレパートリーへの対応を実現するため、2016年度を目標に計画的に12型3管（76名編成）を目指す。

現在の日本若手演奏家は優秀な人材が多く、オーディションまたは契約によって優秀な人材確保を財政面とのバランスを取りながら進めていく。

⑦ 海外公演

「平和・交流」をテーマに「芸術文化大使」として演奏や招聘アーティストとの共演を通じて、国際社会の相互理解に寄与する。2011年度より文化庁の海外公演助成制度が変更となり、「東アジア

ア地域」公演を重点的に支援することになった。今後も文化庁や現地主催者の費用負担によって、収益のある海外公演については積極的にやっていく。

(2) 収入の確保

① 文化庁補助金、民間助成財団の助成金獲得

2009年度の「事業仕分け」の影響によって、2012年度より文化庁からの支援制度が今までの公演の赤字補填から年間事業支援（3年間）に変更になる見込みである。これは、当団にとって今まで同様の活動で支援額が増える可能性があるが、団体としての経理面の透明性などをより明確にして行かなければならない。

民間助成団体は、公演支援審査の重要度を芸術性の高さ、先駆的・実験的な視点に置いており、チケットの売り上げに曲目や内容が貢献しない反面があるが、当団の積極的な企画は助成金確保に有利に働いている。今後も公演収入とのバランスを取りながら、さらに優れた企画制作を行い、確実な助成金確保に努める。

② 賛助会員拡大

昨今の世界不況の中、経営悪化を理由に退会する企業もあるが、新規会員も確保することができ、会員数は微増の状態である。

日本経済は徐々に回復の兆しが見られるが、円高傾向などの先行き不安要素もあり、引き続き企業の経費引き締めは続くと考えられる。賛助会員の退会を最小限に留めると同時に、大阪府外の新たな地域での営業活動に努める。現在公演を行っている京都府内、滋賀県内はもとより、来年度以降新たに公演を行う地域の優良企業とのコネクション作りによって新規会員確保に努める。また、大型スポンサー確保については、当団活動意義を理解いただき、日本国内にとどまらず海外企業にも視野を広げてアプローチを行う。

さらに、当団が加盟している社団法人日本オーケストラ連盟や社団法人日本芸能実演家団体協議会、文化庁を通じて、現在政府で行われている寄付金税制改革にも積極的に働きかけ、より寄付が集まりやすいシステムの推進に努める。さらに、企業のみならず個人の寄付金の増加にも積極的に努める。

③ 定期会員拡大

2009年度より定期演奏会のチケット料金を¥1,000値上げしたが、会員数は微減で収益は上昇した。引き続き2010年度もほぼ横ばい状態で推移している。聴衆は、他オーケストラとの定期演奏会の内容、演奏レベルを厳選して入会判断を行っている。定期演奏会のより充実した内容、より高い演奏レベルの提供を行い、またホームページなどによる広報宣伝の充実や聴衆志向を精査して会員拡大を図る。

2010年度より、インターネットでのチケット購入システムを導入して、チケットを24時間購入できるようにした。これによる会員数増加を期待している。

(3) 事務局体制の強化

楽団の自立化・民営化に伴い、他オーケストラとの依頼公演獲得競争の激化、寄付・スポンサー獲得体制の強化、経理面の精査・透明化など、今まで以上の事務局能力の高さが必要となる。

そのため2課制を3部制に組織改編し、より実行力のある事務局にする。危機意識を高める意味でも年棒制の導入も図りながら、意識改革を推し進めて効率的な事務が可能なようにする。

3. 活動内容

2009年12月に決定した新たな方針【新しい発展を目指して-20周年を迎えての新たな決意】「大阪力・発信」「感動・癒し」「発掘・育成」「交流・平和」を基本方針として活動を行う。

【2011年度体制】

- 音楽監督 小泉 和裕
- 首席客演指揮者 沼尻 竜典
- コンサートマスター 後藤 龍伸
- 編成 10型2管（定数56名）

大阪力・発信

定期演奏会を中心に、京都特別演奏会、びわ湖定期公演、依頼公演において、芸術性の高い演奏を提供して、「大阪力」の発信を行う。

さらに平成23年度は、新たに三重特別演奏会、福井特別演奏会、神戸特別演奏会をホールとの共催により開催する。

(1) 定期演奏会（別紙参照）

ザ・シンフォニーホール 10公演（第160回～169回）
小泉和裕音楽監督4公演、
沼尻竜典首席客演指揮者2公演外国人指揮者4公演

(2) びわ湖定期公演

2010年度より開始した定期公演を引き続き、財団法人びわ湖ホールと共催で開催する。

公演名	大阪センチュリー交響楽団びわ湖定期公演 Vol.2
日時	2011年7月24日（日） 15時開演
会場	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール
指揮	大山 平一郎
独奏	パク・ヘユン（ヴァイオリン）
曲目	チャイコフスキー：セレナード ハ長調 作品48 メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲ホ短調 モーツァルト：交響曲第41番「ジュピター」

公演名 大阪センチュリー交響楽団びわ湖定期公演 Vol.3
日時 2012年3月18日(日) 15時開演
会場 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール
指揮 小泉 和裕(音楽監督)
独奏 小菅 優(ピアノ)
曲目 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」

(3) 京都特別演奏会

公演名 大阪センチュリー交響楽団京都特別演奏会
日時 2012年1月15日(日) 15時開演
会場 京都コンサートホール 大ホール
指揮 小泉 和裕(音楽監督)
独奏 四方 恭子(ヴァイオリン)
横坂 源 (チェロ)
曲目 ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 作品68

(4) 三重特別演奏会

公演名 大阪センチュリー交響楽団三重特別演奏会
日時 2011年6月26日(日) 15時開演
会場 三重県総合文化センター 三重県文化会館
大ホール
指揮 小泉 和裕(音楽監督)
独奏 小山実稚恵(ピアノ)
曲目 グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番
ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」

(5) 福井特別演奏会

公演名 大阪センチュリー交響楽団福井特別演奏会
日時 2011年7月18日(月・祝) 15時開演
会場 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
指揮 小泉 和裕(音楽監督)
独奏 小山実稚恵(ピアノ)
曲目 チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番
チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調

(6) 神戸特別演奏会

公演名 大阪センチュリー交響楽団神戸特別演奏会
～リスト生誕200年記念～
日時 2011年11月23日(水・祝) 16時開演
会場 神戸新聞 松方ホール
指揮 山下 一史
独奏 岡田 将(ピアノ)
曲目 リスト：交響詩「レ・プレリュード」
：ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調
：ピアノ協奏曲第2番 イ長調
：ハンガリー狂詩曲第2番

(7) 依頼公演

「ラ・フォル・ジュルネ」(びわ湖ホール)をはじめ、「の
だめカンタービレの音楽会」(兵庫県立芸術文化センター他)
や「紀陽コンサート」(和歌山市民会館)など、約40公演を
予定する。

感動・癒し

オーケストラの社会貢献活動として、高齢者やふだん演奏会に馴染みのない方に音楽の力による本物の感動体験を提供する。

(1) 名曲コンサート

公演名 センチュリー四季コンサート 2011-春
日時 2011年5月22日(日) 15時開演
会場 NHK大阪ホール
指揮 小泉 和裕 (音楽監督)
独奏 田村 響 (ピアノ)
曲目 グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番
ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」

公演名 センチュリー四季コンサート 2011-夏
日時 2011年8月21日(日) 15時開演
会場 NHK大阪ホール
指揮 小泉 和裕 (音楽監督)
独奏 滝 千春 (ヴァイオリン)
曲目 ベートーヴェン：「エグモント」序曲
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番
ビゼー：歌劇「アルルの女」組曲第2番
ラヴェル：ボレロ

公演名 センチュリー四季コンサート 2011-秋
日時 2011年11月13日(日) 15時開演
会場 NHK大阪ホール
指揮 小泉 和裕 (音楽監督)
独奏 福間 洸太郎 (ピアノ)
曲目 ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲
グリーグ：ピアノ協奏曲
ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

公演名 センチュリー四季コンサート 2011-冬
日時 2012年2月26日(日) 15時開演
会場 NHK大阪ホール
指揮 小泉 和裕(音楽監督)
独奏 南 紫音(ヴァイオリン)
曲目 ワグナー：楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調
ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」

(2) 特別支援学校コンサート

生の音楽に触れる機会の少ない府立特別支援学校の児童・生徒を招き、オーケストラによるコンサートを実施する。また、障害者が来場するのに適した会場がない北部地域支援学校に出向いてアンサンブル演奏を行う。

オーケストラコンサート

日時 未定(1公演予定)

会場 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)

アンサンブル演奏

日時 未定(2日間予定)

会場 各府立支援学校

(3) 府立病院コンサート

病院に入院、通院されている患者やその家族に、音楽演奏による心の安らぎを提供するため、5ヶ所の府立病院のロビー等で、アンサンブル演奏会を実施する。

(4) 星空ファミリーコンサート(「西田房子記念事業基金」活用)

夏休み最後の土、日の二夜、服部緑地野外音楽堂で、音楽クイズや指揮者コーナーなど、家族で楽しめるコンサートを開催する。

日時 2011年8月27日(土)、28日(日)

両日とも 19時30分開演

指揮者 小田野 宏之

曲目 検討中

発掘・育成

児童、生徒、青少年に生の音楽演奏の鑑賞や、体験や参加の機会を提供することを通じて音楽の力による健全な育成に寄与する。

(1) 「オーケストラの日」演奏会

オーケストラを身近に感じ、低料金で楽しんでいただくことを目的としたコンサートを、2012年3月31日「オーケストラの日*」に行う。

日 時 2012年3月31日(土)

会 場 未定

指 揮 小泉和裕(音楽監督) 打診中

*社団法人日本オーケストラ連盟では、3月31日(ミミにイチばんいい日!)を「オーケストラの日」と定め、全国31加盟オーケストラがそれぞれの地域で様々なイベントを開催する。

(2) 文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」公演

子どもたちに音楽鑑賞だけでなく、事前の実演ワークショップや、本番当日の舞台上で子どもたちと共演することにより、本物の舞台芸術を体験する公演活動を行う。(中国地方)

(3) 教育プログラム「タッチ・ジ・オーケストラ」

小学生を対象に、演奏を鑑賞するだけでなく、楽器に直接触れる、歌での共演などオーケストラを身近に体感するコンサートを実施する。

会 場 センチュリー・オーケストラハウス

16公演予定

(4) 「センチュリー・ユースオーケストラ」の指導、育成

財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携し、中学一年生から29歳までの青少年を募り、ユースオーケストラを組織して指導・育成を行う。

指揮者小田野宏之氏と楽員の指導により、第4回定期演奏会および「星空ファミリーコンサート」での大阪センチュリー交響楽団との合同演奏の他、野外活動を行う。更に、日独友好交流150周年記念事業として、ドイツ・デュッセルドルフ市のユースオーケストラとの合同演奏会を開催する。

合同演奏会

“ユーゲントシンフォニーオーケストラ デア トーン
ハレ デュッセルドルフ&センチュリー・ユースオー
ケストラ ジョイントコンサート”

日 時 2011年11月3日

会 場 いずみホール

指揮者 Ernst von Marschall、小田野宏之

第4回定期演奏会

日 時 2012年3月(予定)

会 場 いずみホール(予定)

指揮者 小田野 宏之

(5) 「おとなのためのヴァイオリン教室」

定期会員、ファンクラブ会員限定の楽器個人指導教室を
再雇用楽員によって行う。

期 間 前期(4月-9月) 各1時間 全8回

後期(10月-3月)

会 場 センチュリー・オーケストラハウス

(6) インターン・シップ、中学生職業体験の受け入れ

大学コンソーシアム大阪、大阪音楽大学及び大阪芸術大学
からインターン・シップ研修生や中学生を受け入れ、オーケ
ストラ事務局業務等に関するレクチャーと実務体験を行う。

(7) 「ドネーション・シート」の実施

支援者から定期演奏会チケットの提供を受け、音楽家を
目指す高校生に、オーケストラ鑑賞の機会を設ける。

対 象 府立夕陽丘高校音楽科生徒

(他高校も検討中)

規 模 定期演奏会(160-169回)10公演各2席

交流・平和

「世界共通言語」である音楽を通じ、音楽大使として国際相互理解や平和の構築に貢献する。

2012年度は上海、2013年度はスイスからオファーがあり、財政面も勘案しながら計画を進める。